

入選

「明日は、来てね」

大分県 大内小学校 5年 大森 海斗

僕は、3、4年生のときに、学校をよく休んでいました。少しいやなことがあったり、失敗してしまったりして、学校に行くのがいやになってしまったのです。2、3日、長いときは、一週間休んでしまうこともありました。

そんなときに助けてくれたのは、友達です。休んでいた日に手紙を届けてくれたり、直接話しに来てくれたりしました。来てくれたときには、

「大丈夫、明日は来てね。」

という言葉や、

「大丈夫、今度遊ぼうね。」

という言葉をかけてくれました。そのときに僕は、

「明日は、学校に行かないといけないな。」

と思いました。待ってくれている人がいるんだとわかってうれしくなりました。

あるとき、言葉をかけてくれた友達が何日か学校を休んでしまいました。その友達が休んでとても悲しくなりました。何かできることはないかなと考えました。

そして思いついたのは、学校からの手紙を届けるのといっしょに、声をかけてあげようということです。あと、ほかの友達といっしょにメッセージを書くということです。その友達が休んだときは、できるだけ僕が手紙を届けました。遊びや好きなことの話をしたりして、最後には、

「明日は、来てね。遊ぼうね。」

と言って帰りました。その友達は、少しずつだけど、学校に来るようになりました。僕がしたことが学校に来るきっかけになっていたらいいなと思いました。

僕は今、毎日学校に来ています。僕が学校に行けるようになったのは、友達のおかげだと思っています。

「明日は来てね」というひとことがなかったら、僕は、(今日休んだんだから、明日休んでも同じだろう。)と思いつけていたかもしれません。

小さな親切や、心がけで大きく変わるものもあるんだなと思いました。僕は、これからも友達がうれしくなるような声かけをしたいと思います。